

地域の医史学特集にあたって

本号と次号にわたって「地域の医史学」を特集してお届けする。

歴史をもって、時間と空間との双方の座標を占める人間の、個人的あるいは社会的な営為を積分したものとするとするならば、医史学もまたそのような営為の確な記述と評価を抜きにしては成立しないものであろう。

ここに集められたのは、その空間座標に定位して進められた研究の成果である。編集委員会としては、そのテーマをいちおう概論・特質論、各論的テーマ、研究史、資料のように設定したが、今回の執筆者の多くは第二の範疇に属する主題を選ばれた。

医史学が深さと広がりを加える上で、まずこの種の業績の蓄積が必須の要件であることに異論はないはずであるから、このような傾向は編集サイドの予想と一致するに止まらず、会員諸賢の歓迎されるところでもあろう。その他の範疇に属する論文も含蓄するところが大きいことはご覧のとおりである。

なお、本号の編成については、地理的な組合せのほかに、当該筆者の特集以外の寄稿の有無、分載予定や近接地域からの寄稿状況などを考慮して決定した。今回執筆いただいた各位にあらためて敬意を表するとともに、当委員会は引き続き他の地域からの寄稿を期待するものである。

(編集委員会 三輪卓爾)